

こんにちは。

株式会社逸材は君だ代表取締役の酒井翔平です。

まずは軽く自己紹介していきます。

1994年4月生まれ。埼玉(所沢)育ちの慶應大学(経済)出身。

在学中の20歳のときから起業し、インターネットを最大限に活用するマーケティングを学び、自動的に収益を上げる仕組みを構築。

また培った技術と経験を生かし、計500人以上を指導するビジネススクールやコンサルタント業も務める。

また多くの方々と関わるなかで人は知識1つきっかけ1つで大きく成長することを痛感し、

現在は研修を転職する方向けに行いスキルアップした上で企業様に紹介する株式会社逸材は君だを設立。

そして近いうちに地方のテレビ局にも出演予定。

好きなことはテニスしたり体を動かすの好きです。卓球、バスケ、ビリヤードとかもたまにやります。

あとは美味しいもの食べたりお酒を飲むのも好きです。

だからふらっと知らないお店に立ち寄ってお気に入りの店を発掘するのが趣味です。

お酒はビール、日本酒飲むことが多いですかね。基本飲みたがりなのでおすすめあったら教えてください。

本は仕事柄ビジネス系の本をよく読みます。特に経営者の自伝とか人の一生について語られてるのが好きです。

孫正義さんの本は特にかたっぱしから読んで面白かったのでおすすめです。

他にも漫画もよく見ますし、映画も時間があるときは見るようにしています。

ちなみに弊社は映画のスポンサーもやっております。

面白くて好きな作品があったらまたブログとかに書きますね。

僕は新しいもの面白いもの刺激的なものがあればすぐ飛びついて試したり実践したりするのが好きです。

要は知的好奇心が旺盛な人間です。

逆にいうと暇と退屈がこの上なく耐えられなくてそういう状態が続くと僕はすぐ体調を崩します笑

そんな僕にとって今の仕事はいろんな方にお会いできて、いろんな経験をさせてもらえて、いろんな情報を得られるので毎日が楽しいです。

もちろん会社を経営する上で困難や辛いことはあるのですが、そういった壁を克服するプロセスを含めても毎日が勉強になるし充実しています。

今の会社では転職したい方を育成して企業様に紹介するというのをやっています。

この会社ができた背景には僕の過去の成功体験が大きく影響しています。

**僕は今でこそ代表として人前に堂々とする機会が多くなっておりませんが、
昔の僕は人と話すの苦手なコミュ障でとても社長になれる人間ではありませんでした。**

**自信のかけらもなく声も小さいし他人の目を気にして常に緊張して
るようなビビリでした。
僕はそんな弱々しい自分が嫌でしたが、何をどうすれば変われるかわかりませんでした。**

ただそんな僕が大きく人として変わったきっかけは人との出会いであり知識を得たことです。

**僕にはずっとお世話になってる師がいます。
その人と出会ってなかったら間違いなく今の僕はいません。**

**僕はその師からたくさんことを学びました。
お金とは？人間とは？仕事とは？常識とは？などなど本質的なことを学び、
僕は大きくひとまわりもふた回りも今のように成長することができました。**

**お金を稼ぐとはどういうことなのか？
コミュニケーション能力はどうして大事なのか？
成功するためには何が必要なのか？**

僕は師からあらゆることを学びどう行動すればうまくいくのか知り、

人生が少しずつですが豊かになり僕自身もなりたい自分へと変化を遂げるようになりました。

世の中には才能や遺伝や性格などがおおかたの自分を決定するという考え方がありますが、僕は知識こそが自分の人生の選択肢を増やし無限の可能性を創り出すと思っています。

人との出会いとそこから得る学びこそが自分を変え成長させるのだと僕は切実に感じています。

それは僕の経験のみならずこれまでに教えてきた方々も同じくです。

毎度思うことではありますが、どの方も潜在的にはとてつもないポテンシャルを持っている方ばかりです。

出会い1つ、知識1つ、きっかけ1つで人はここまで変わるのかと幾度も驚嘆するばかりです。

そして幸いなことに多くの方から毎度のように感謝の連絡をいただきます。

「酒井さんのおかげで人生楽しいです！ありがとうございます！」
と言っていただけでと本当に嬉しいです。

僕はそのような経験を積み重ねていくうちにもっと多くの人のサポートができないかと思うようになりました。

加えて今の時代どの企業も人材不足が常に叫ばれております。
先ほども少しお話ししましたが、僕は新しいもの面白いもの刺激的なものが好きです。

しかし世の中には素晴らしい商品やサービスが世間に広まることなく埋もれてしまうケースが非常に多いです。

その結果優れた技術やアイデアが日の目を見ることなく忽然と姿を消したり、
次世代に継承されないのは非常に悲しいことだなと思います。

今の日本には素晴らしいものは多数存在するが、それを広める人が全くいないというのが現状です。

それは大変もったいないことですし、
僕はもっと日本を元気にしたい、世界にもっと日本の素晴らしさを伝えたいと考えています。

そのためには僕が今まで学んできたウェブマーケティングという技術を
多くの方が習得してさらに駆使していただき素晴らしいものが広まる世の中が当たり前になればいいなと思っております。

実際これまでに学ばれた方々の中には
以前までは仕事が毎日単純作業で退屈で辛いものだと思っていたけど、

ウェブマーケティングという技術を学んで仕事がこんなにも充実して面白いものだとは思わなかったとよく言っていただけます。

近年はワークライフバランスという言葉に至るところで耳にしますが、この言葉は仕事というものが苦しくて辛いものという前提で成り立っているのが非常に残念に思います。

人生の全てを仕事に捧げる必要は当然ありませんが、仕事に楽しさや面白さを見いだすという考え方がもっと当たり前に浸透してもいいのではと思います。その方がより人生が充実し豊かになるはずです。

僕は今お話ししたことを少しでも実現するために会社を立ち上げました。

しかしこのような考えに至ったのもずっと前の話ではありません。僕はもともと夢や理想など何1つ思い浮かばない人間でした。

自分でやりたいこととか探そうとせずに常に他人から言われたことだけを優先する
他人任せで自我のないロボットのようなものでした。

僕はそんな自分に長年疑問を持たずに生きていましたが、ふとした出来事により自分は間違っていたと思い直します。

**今回は僕が今までどんな人生を送り悩みを抱え克服してきたか
全て思いのままに書き記しました。**

かなり長くなってしまいましたがぜひ読んでいただけると嬉しいです。

僕はとにかく他人の目を昔から気にする人間でした。

小学生の頃からもう常に他人からどう思われるかを考えるような人間でした。

それは良い面も悪い面もあってただ最初は幸運にもいいことばかりでした。

**友達の家で遊んでる時も見栄えがいいように素直でいい子してれば
友達のお母さんとかが喜び**

それを見て自分の母親が喜んだりするから僕も気分がいい

勉強も特別何かが好きだったという記憶は正直なくて、

**でも僕が勉強頑張っていると周りがすげーすげーと羨望の眼差しで見
てくれるのは嬉しかった。**

あとは単純に先生も親もじいちゃんばあちゃんも成績いいと喜ぶからやっぱりそれも嬉しかった気がする
ただこれもまた自分のためというよりは他人に良く思われるために勉強してたと思う

そういえば昔小2くらいの時にプールの授業で全然泳げなくて、知らない奴に泳げないのダサくね？とか言われて家帰って大泣きしたことがある。

あの時はめっちゃ悔しかった。ダサいのやだな、馬鹿にされるの嫌だなと思って
両親にスイミングスクール行ってあいつ見返してやる！といって毎週通うようになった。

ただプールの先生がものすごい厳しい鬼教官で練習中、僕がうまくいかないと何度も激怒される。
だから毎晩毎晩プールから帰ってきたあとは号泣してた。

もうこんな辛い思いするならやめたいやめたいと何度も思ったけど1ヶ月もしたら10mくらいは息継ぎなしで泳げるようになってだんだん自信もつき怒られることも減っていった。むしろ褒められることが増えて楽しくなった

そしたらやっと3ヶ月後にはクロールで25m泳げるようになって泳げないコンプレックスから脱却してその時は最高の気分だった。
ちょっと前までは水に顔つけるのも怖い怖いとビビってた人間が

毎週練習したらプールの端から端まで泳げるようになったのだから
そりゃあ気分がいい。

でも泳げるようになったあとはプールに関して興味はなくなりどう
でもよくなった。

とりあえずクロールと平泳ぎができたらずぐにやめてしまった。

僕は所詮いいか悪いかは別として他人によく思われるために頑張る
のが原動力だった

同級生にダサイと思われるのが嫌だから泳ぐの頑張る

鬼教官に怒られて何度泣きわめこうが、ダメな奴だと思われたくな
いからそれでも頑張る。

鬼教官も結局僕が泳げるとすごく喜んでくれたから期待に応えられ
て僕も嬉しかった。

こうして僕は他人によく思われるためにはどうすればいいのかな？
というのが

何か行動する時に大きな基準になっていたと思う。

そして僕はこれが絶対に正しいと確信していた。極端にこの考えを
崇拜してた

周りが喜べば自分はそれでいい、何もトラブルは起きない、みんな
幸せで最高じゃん！といった感じだった。

周りの気持ち最優先、自分の気持ちはどうでも良くて別に自我とかない方がいい。

実際それで僕の日常は何もトラブルなく周りの友達からも信頼され楽しく元気に過ごしてた。

ただ僕はこの時の自分が極端な考えをしてることに気づかずにいた。

周りのことだけを考えるといいことばかりでもなかった

周りの期待に応え続ける事が当たり前になると周りの要求も高くなる。

酒井ならテストも90点以上とって当たり前。

大勢をまとめることになったら酒井がリーダーになって当たり前。

運動とかスポーツも酒井はできて当たり前。

僕はそんな事が当たり前のようにまかり通るうちに

自分に対して常に完璧であることを課すようになった。

僕はいつの間にか自分が完璧であることを普通だと考えるようになってしまった。

それは僕がある程度周りの要求に応えることができてしまったからこそ、

この考えは後々大きく僕のことを強く苦しめる

それでも僕は周りが求めることなら自分は何にでもなってやる人から褒められたい、認められたい、尊敬されたい、羨ましがられたい。

その欲求だけで動くのが僕自身1番正しい生き方だと信じて疑わなかった。

ただそんな生き方はじわじわと自分の体と心を蝕んでいった。

高校生の頃、受験を経て県内の進学校に入学した小学校や中学と違うのは周りの学力のレベルが高いこと。

自分より頭良くて、人柄も良くて、運動もできて、イケメンで、リーダーシップもあって、人気者なんていたるところにいたからその時はもう驚いた。

今までいた地元の学校の世界はちっぽけなものなんだなと気づかされた。

ただそれでも自分は周りからいいように思われたい、舐められたくはないという気持ちが強かった。

だからまずは進学校なので勉強は欠かさなかった。
みんな周りは頭いいので勉強しないとすぐ置いてかれる。
だから必死になって食らいついた。

僕はここで初めて恐怖とか危機感を感じるようになる。

今までは周りが喜んでくれるから好かれるから何か頑張るときには頑張れたけど

高校に入ってからには完全に変わってしまった。

勉強ができなくなったら自分は周りから見放される？

嫌われてしまう？興味を持たれなくなる？自分が自分じゃなくなる？

なんてことを思い始めるようになってしまった。

そうすると少しずつ頑張ることが辛くなってきた。

精神的にもストレスがかかり他人の目を極端にうかがう生活をするようになった。

またうちの高校の方針としてはいい大学に入っていい会社に入れというはずと言われ続けた。

だから「難関国公立大学に現役で合格」が至上命題として掲げられてた。

僕はもう何度もいうが、自分の考えとか特に全くなくて

他人の考えや周りが僕にやって欲しいことを優先に物事を考えてきた。

だから僕には当時将来やりたいことなんて1ミリもない。

むしろやりたいことなんてほとんど1秒たりとも考えてない。

だから先生たちがいうように特に自分の意思とかはなく国立大学を目指す。

その中でも僕が目指したのは東大。
あの天下の誰もが知る日本一の大学だ

なんで東大かという理由は1つ。
周りの人が僕が東大に入ることを望んでると思ったからだ。

先生たちも生徒に東大合格者が出たら鼻が高いだろう
友達も東大目指す言ったらまじかよすげーなって言ってくる
親はあんた大丈夫なの？と言っていたが受ければ間違いなく喜んでくれる

東大を入ったらやりたいことなんて全くないけど、
少なくとも僕が東大を目指して不利益を被ることはないと踏んだ。
目指すのは誰だってできる。ただ目指すからには結果を残したい。
そういう気持ちだった。

僕は東大が1番望まれるべき選択肢だったと思ったが、現実には徐々に悪い方へと進んでいく

部活は引退して受験生になって勉強に集中し始めた頃、
毎日長時間勉強はしても一向に成績は上がらない。
ましてや東大なんて雲の上の存在で合格の気配は一切ない。

焦る。自分はダメな人間なのかと自信がなくなる。
先生にも友達にもなんとなく合わせる顔がない。

周りから見たら僕は頑張ってるように見えるから応援してくれるの
だけど、

それでも結果が伴ってないと僕が裏切ってるみたいで苦痛だ。

でも期待には応えたいから周りから調子はどう？と聞かれたら
いい感じかな！と答える。内心は全然ダメダメなんだけども。

こういう状態が続いていくと、僕は勉強ができてなくてもできてる
ように振る舞うようになる。

これは確かに嘘なのだけど、周りは安心するし喜ぶしついてもいい
嘘だと決めつける。

ただ自分に嘘をつき続けるのは想像以上にしんどい。

それでも周りにいいように思われたい、ダメだと思われたくないの
一心でなんとか自分を保つ。

今思えば僕は周りのこととか言っておきながら自分の事しか考えて
なかった。

自分がどう見られてるか、どう思われてるか自分の評価ばかり気に
してた。

だって他人から見たら僕がこんなことで苦しんでるならそこまで頑
張らなくていいじゃんとか

そういう風に思っても全然おかしくないのに。

ただ当時の僕はそんなことに気付けるほど余裕もなく視野も本当に狭かった。

そして周りの目を気にしすぎて神経質になりすぎた僕は人と絡むのが嫌になってきた

相手が何を考えてるのか色々考えてしまっただけでそれに自分を合わせるのがもう辛いからだ

昔はそれを当たり前のように苦なくやってたのだけど、もう僕にはそんなキャパは残されてなかった。

こんなに人の目気にして精神すり減らすくらいなら1人でいた方が楽だ。

だから勉強するときも1人でやったし、休み時間も誰とも話さず参考書みる、昼飯も1人でコソコソ食う、1人で図書室こもる学校の帰りも黙々と1人で帰る生活をするようになり、学校で1日中一切声を発さないこともしばしばあった

そんな生活するくらいならさっさと勉強やめてしまえばいいし志望校も東大から下げればいいと思うかもしれないが、そんな勇気も余裕も当時の僕にはない。

みんなが必死に勉強してる中、何そんな弱音吐いてんだとか思ってしまうし

仮にちょっと相談しても受験生は受験当日まで成績伸びるとかいわれて

諦めるな！まだ頑張れ！とかどうせいわれるだろうし。

たとえ誰かに胸の内を打ち明けたとしても
なんでやめるの？諦めるの？どうしたの？と詰められる気がして
何もかも失いそうな気がして怖くなった。

ただ頑張れといわれても僕は僕なりに頑張ってる
頑張れといわれてしまうと自分が頑張っていないように思えて惨めになる

こうして自分はダメなんだと自己否定、自己嫌悪の気持ちが一層強くなり

僕はとうとう溜まったストレスが最高潮を迎える。

頭の中は勉強のことでいっぱいいでしんどい状況が続いて、
僕はついに毎晩夜中の3時になると金縛りに遭うようになる。

金縛りで僕は体が動かない、息ができなくて苦しい、心臓が締め付けられる。

そんな状態が1分弱のあいだ定期的に何度も訪れた。

苦しくて苦しくて辛かったけど僕はどうすることもできなかった。
金縛りがおさまったら僕は心身ともに疲れてるのでちょっとだけ二度寝して

朝勉強するために早起きしてまた勉強付の1日が始まっていた。

実は幸か不幸か朝起きてる時には勉強のことで頭がいっぱいで金縛りになってたことはすっかり忘れてしまってる。
だからこの時でも自分はまだやばい状況だと気づいてない。

もうすぐ1月のセンター試験が始まってしまう。
そこでコケたら東大なんて無理で今までの時間が水の泡になる。
だから当時は必死に勉強してるつもりだった。

つもりだったというのはなんでかというのと当時の本人は勉強してると思ってるけど、
今振り返ってみると心も体もボロボロで集中して勉強できてなかったと思うので
周りからは頑張ってるように見えても僕の頭には全く知識が入ってなかったと思う。

そしてセンター試験。
僕は周りから期待される点数よりもはるか下の得点を叩き出した。
つまりは大撃沈でもう東大に限らず難関国立合格もかなり厳しい状況になった。

次の日に僕は学校を無断で勝手に休んだ。
行く気になれなかった。人生で僕が覚えてる限り初のズル休みだ

今までいい子振る舞ってきた僕からしたらありえないことだし、
クラスの人とかもあいつどうしちゃったんだ？みたいな感じになってただろうけど

当の本人はじゃあショックを受けて家で引きこもってたかという
と違かった。

僕はあらゆるプレッシャーから解放されてホッと安心してむしろ超
元気になった笑

だから親もそんな僕の表情を察したのか学校休むわとか言っても
何も聞かずにそっと勝手にすればと自由にさせてくれた。

僕はてっきり受験で大失敗したらものすごい落ち込むと思ってた。
だから失敗して安心して自分に驚きつつも色々と考えさせられる
大きなきっかけになってくれた。

今までの自分を俯瞰で見れるくらいは余裕をかなり取り戻していた。

それでまずその時思ったのが、まちがいなく今までの自分のやり方
は間違ってるということ。

この先同じ生き方をしたら今度こそ死ぬかもしれないと思った。そ
のくらい自分を知らぬ間に追い込んでた

他人からいいように思われたいとか最優先にすべきではなくて、
それで死んだら何も残らないし誰が喜ぶんだよとなる。

というかそもそも東大目指すのは本当にだれかが望んだことなのか？

結局選んだのは自分じゃないか、東大目指してたのは自分の見栄のため

周りのためのようで誰のためでもなかったような気がしてならない。

自分でも受験勉強中はなんのために勉強してるのかよくわからなくなっていた。

ただ自分がやってしまったなど反省すべきなのは自分がやりたいとちゃんと意志を持って物事に取り組もうとしなかったこと。

自分の将来を主体的に考えることを放棄したこと。

それはやってはならないことだとこの時は本当に痛感した

周りの言ってることに流されたという側面は少なからずあるけれど、

それは流されたとしても責任は自分で持つべきだ

ただ実際志望校下げたらいけないみたいな雰囲気は客観的に見て学校でそういう空気感があった気がする

進学校特有のいい大学入らないと幸せになれないみたいな一元的な価値観は強かったと思う。

もちろんそう強く感じたのは僕が他の選択肢を全く知らなかったからそう感じたわけで

全て僕の知識不足が招いてるのは間違いないと思う。

あんなに人生で1番勉強に執着してたのに知識不足というのはなんと悲しいことか。

本当に大切なことは誰も教えてくれない。

いや教えてくれたとしても常識という絶対的な価値観を信じてしま
い

そのままなかったことにされて覆い隠されてしまう。

要は自分はアホだとこの出来事で自覚した。

何も考えてない無知な人間だと気付かされてしまった。

あんなに勉強したのにあんなに他人のこと考えてたのに
いざ自分の中に何があるか問いただしてみると何も残ってないのだ。

自分の意志とか考えたことなくて周りに合わせて常識に合わせてき
たから

自分がこれから何をしたいか考えたときに何も思いつかない。

空っぽの自分に絶望を感じてしまった。

そう考えると自分は中身空っぽの人の形をしたただの入れ物で
個性もなければ夢もない価値のない人間なのかなと強く自分を恥じ
るようになる

言ってしまうえばロボットだ。

僕は言われたことしかできないしやらない。命令なしでは動かない。

そんな受け身の人生を過ごしてきた自分に気づいてしまいなんとも虚しい気分になりました。

ただここで僕はこれまで他人のためにと思い費やしてきた時間を取り戻したいと思い浪人したいと親に直訴した。

受験でも確かに悔いは残ってるのだけど、それ以上に圧倒的に今までの自分を変えるためにゆっくり時間を取りたいと思った。その時間の中で自分のやりたいこと見付け出して、主体性を戻して大学に行きたいと親に話した。

それで親の承諾を経て1年浪人することになり、東大はもうすっぱり諦めて科目の少ない早慶を目指すことになりました。

今まで9科目とか確かやってたけど一気に3科目になったのでストレスフリーです。これは明らかに時間が余るだろうと思ったので、僕は浪人生の時は本屋に入り浸ってました。

教科書・参考書以外読んでこなかった僕からしたら

学校の指導の範囲から外れた分野の本で未知の知識多すぎてこれが楽しすぎました。

あーなんて今まで自分は狭い世界でもがいてたんだろと反省です。

世界史の本とかも教科書より面白いから読み漁ったし
心理学とかも結構好きでしたね。

正直僕が読んでた本は当時受験にも関係なくて偏差値も上がらないものばかりでしたけど
ただどれも読んで面白くて楽しかったしいまでも役に立ってる知識が多いので全く無駄ではなかったです。

そう考えると学歴ってマジでなんなんだろうとふと思ってしまうこともありました。

この時はまだ違和感程度でしたが起業して会社経営するようになってこの違和感が確かなものとなります。

またそれは後で話すとして。

ただ僕のやりたいこととかははっきり見つけられませんでした。
興味ある本、人、イベントとにかくがっついて飛び込んでなんでも吸収しようとアクティブにはなりましたが
具体的に何やればいいのかはずっと空っぽのままなんとももやもやした状態が続きました。

こんなに見つからないものなのかと落胆はしていたものの

大学に行けば見つかるかと思い僕は最終的に慶應大学に進むことになりました。

慶應に入学できたのは本当に高校の時に曲がりなりにも猛勉強のおかげで
どこは高校時代サボらなくてよかったと思っています。

ただ浪人時の心境の変化としては正直どの大学に進むか全くこだわりがなくなっていた。

高校の時は東大とかいい大学じゃないとダメだ！とか思ってたけど浪人の時はどうせ受かった大学しか行けないし、どこの大学に行こうが何学ぶかは自由だし気にしなくていいやと。

だから浪人の時の受験はほぼ一切緊張しなかったですね。

もう勉強の時間が有り余りすぎてやることやったからというのもあるんですけど、

1番はどの大学でもいいや、どんな結果も受け入れようという余裕ができたのが大きかったです。

その余裕が功を奏したのか慶應に受かったのは驚きでした。

正直落ちるかもしれないけどとりあえず受けようというレベルだったので。

そして晴れて大学に入学するのですが、

慶應って僕は入る前すごいキラキラなイメージ持ってたんですね。

**だいたいモテるとか金持ちとか慶應ボーイってイケイケな感じに
入学したらなれるかと思ってたんですけど
結論からいうと無理でした。**

**大学入った瞬間にモテるようになるとか基本的にはないです。
ただちやほやは少しされます。
慶應すごい、さすが慶応とか言われるけどまあそのくらいです。**

**たまに周りに女の子が群がるのが普通でしょ？とか言ってくる人い
ますが、
一般的にはないです。いたとしてもそれは慶應だからではなくその
人の魅力です。**

**あと個人的には周りの人とギャップもすごい感じました。
これは僕が何かやりたいこと探したい！勉強したい！という意識高
いのマックス状態で入学してしまったというのもあるのですが
周りは基本的に遊びたい！彼女作りたい！もう慶応入ったし人生も
う頑張らなくていいわみたいな人たちばかりで微妙でした。**

**いや僕も遊びたい人間ではあるんですけど、ただ飲み会でギャー
ギャー騒ぎたいんじゃなくて
なんかもう新しいことに挑戦してワクワクしたいぜ！成長したいぜ！
みたいな方向性だったんです。**

というわけで僕は入学早々「君に友達はいらない」という本を買ってしまいうらい
周りの人間と肌が合わなかったことを覚えています。

授業は出るには出るものの話がつまらないし、
これが本当に自分の役に立つと思えないし意欲は削がれる。
サークルは友達はいたんだけど大学の友達は交流は広まれど圧倒的に関係は薄っぺらい。
とりあえず顔見たら挨拶するか程度の友達が大量生産されてこれまた微妙。
楽しいけど心の底から楽しいかと言われるとしっくりこない。

そんな感じで僕は大学生活に数ヶ月で飽きました。
暇だし退屈で超つまらなかったことを覚えてます。

何かやりたいけれど何もやることが見つからないというモヤモヤが相変わらず強くなってました。

そんな時に起業という選択肢が思わぬところから降ってきました。

ふと暇すぎて家でゴロゴロしながらスマホをいじっていると
同じ大学生で事業を複数持って会社を経営してる人が書いてるブログを見つけました。

もともと金持ちではなく、人脈もなかった僕と同じような大学生が

億単位のお金を稼いで成功するいきさつがブログには細かくドラマチックに書かれていました。

それを見て僕はすげー！面白い！自分もこんなことやりたい！と強く思いました。

今まで起業なんて1ミリも興味なかったけど、一瞬でビジネスの世界に引きずり込まれたのです。

釣りでいうなら明らかに大物の巨大マグロがヒットしたかのように直感でピンときたのです。

これだ！俺はこういう刺激的な世界を求めてたんだ！と。

もちろん最初は本当に自分でもできるのか？ここに書いてあること嘘なんじゃないの？と

疑う部分も多かったのですが、もう当時の僕は何もやることなさすぎでどうしようもない人間でした。

だから別に何もやらないよりかはちょっと色々調べてみようかという気分になりました。

そのあとはその人のブログを何度も読み漁って気づいたら全記事くまなく見て

夜中の4時とかになっても眠くならないくらい熱中してました。

さらにはその人がオススメしてることはちょっと自分でも実践して見たりしてました。

例えばオススメ本とか映画見たりして感動したり、
勉強法とか時間管理法とか真似して実践して効果を発揮したり
実際に行動していく中で僕の人生は少しずつ充実して変わっていった。

その人が言うことを実践すると明らかに今までつまらなかった日常が
成長を実感してワクワクする日常に様変わりしていった。

だからこの人の言ってることは本当だなと思うようになった。
そして僕は本人に猛烈に会いたくなった。だからブログに連絡先があったので連絡した。
ぜひ一度お会いできれば嬉しいですとメッセージを送った。

返事なんかこないだろうなと半ば諦めてる部分もあったけど、
その大学生も行動しないと何も始まらんといつも言ってたから迷わず行動した。
そしたら奇跡的に返事がきてしかもご飯にいけることになった。

これがなかったら僕は今この文章を書いていることは絶対はない
そのくらい僕の人生の大きなターニングポイントでした。

それで実際にブログで見てた異次元大学生の方と出会ったわけですが、
もうとにかくあらゆる話が面白くて楽しそうではしかなかったです。

僕が知らない世界がたくさんあることを知ってめちゃくちゃ引き込まれたのをいまでもよく覚えています。

僕の中では就職することが当たり前の世界でしか生きていなかった
ので、

起業とか会社を経営とかは全く誰も教えてくれない世界で
どれも常識破壊的な内容で感情が尋常じゃないくらい高ぶっていま
した。

僕はもうその方からぜひ色々教えてくださいと懇願して、
幸運なことにはじめは雑用からやらせていただくことになった。
そして僕にとって人生初めての師匠ができたわけです。

この時僕は20歳で大学1年生。若いからこそ師匠も僕にチャンス
を与えてくれたのかなと思う。

実際早いうちに自分の力でお金を稼ぐという営みを何度も試行錯誤
しながら体験できるのは良かったです

で、早速色々学びながら自分で実践してビジネスを始めようとし
たわけだが、

正直最初は何一つうまくいかなかった。

まともな結果が出るまでなんだかんだ1年以上はかかってしまった。

でもこれは本来1年以上もかかることではなくて、ちゃんと言われ
たことをやれば正直1ヶ月でも結果は出る。

それでも僕は1年以上も遠回りしてしまったのだ。

僕がやってしまった失敗はもう数知れずありまして、、、

- ・言われたことをやらない**
- ・すぐサボる**
- ・同じ失敗を何度もする**
- ・すぐ他人のせいや環境のせいにする**
- ・忙しい、時間がないとぼやいてぐちぐち言う**
- ・いつかきっと成功すると思い何もやらない**
- ・成功してる人から貪欲に学ぼうとしない**
- ・他人が怒られていても自分ごとに思わない**
- ・約束を平気で破る**

などなどきりがないのでまたこれらの出来事は別の機会に書き連ねようかと思います。

正直これらって別に特別難しくないんですよね。

意識すれば誰でもできる世界のもので特別なスキルとか必要ないです。

僕はかなりなめていました。自分でお金を稼ぐということ。

実際慶應にも入って頭は決して悪くない部類だから自分にはできるとかしょうもない勘違いしてました。

何も根拠がないのに自分はできるとか思っちゃってました。

プライドが高いから一切人から学ばずに結果も出さずに傲慢な態度のまま。

まあ本当にひどいものでした。

とにかく何が言いたいかという受験の偏差値は社会に出たら何も助けてくれないなということ。

勉強できると仕事ができるのは全くの別物で

僕はゼロから勉強するつもりじゃないと何も成果が出せないと気づきました。

それで気がつくとも学生生活も半分終わりつつあり時間をかなり無駄にしてることによろやく気付いたし

何度も何度も師匠からちゃんとやれよ！と怒られてるうちに本当に申し訳なくなりました。

すごいよくしてもらってたのに何も恩を返せてないし全然だめじゃないかと。

僕は一念発起して奮起して今までの自分を完全に捨てました。

今までの自分の延長線上には成功してる自分はありませんともうわかったから

自分を変えないことには何も始まらないと思った。

さっきできてなかったこと全部当たり前最低限できるようにして、

うまくいってる人の真似をずっとずっとコピーしていった。

そしたら腰を抜かすくらいあれよあれよと成果が出るようになっていった。

**僕が何を学んで実践してたかと言うとウェブマーケティング。
これはもう絶対に今の時代学ぶべき武器です。
それを逸材は君だけでは研修で教えています。**

**商品をいかにインターネットを最大限に活用してお客さんに届けるか
これとても会社を大きくする上で切っても切り離せないほどの重要な視点なのですが、
多くの企業がすっぱり抜けてたりいまいち機能してなかったりでもったいないと思ってしまうことが多いです。**

ただこのウェブマーケティングのスキルは以外と学んでしまえば簡単です。

**会社の業績を上げるためには必須の考え方なのですがあまり重要視されてないです。
だからこそ世の中にはウェブマーケティングを学ぶ人が少ないし教える人も少ないです。
ウェブマーケを活用したら本当にびっくりするくらい効果は絶大なのに広まってないのが残念です。**

ウェブマーケティングを使うと社員を半分にしても利益が2倍になるとかザラにあります。

インターネットの力を借りると人手がいらなくなりアプローチできるお客さんも格段に増えるので

こういう一見矛盾してるように見えることが当然のように起きます。

で、僕はそのウェブマーケティングの力を存分に利用して働かなくてもビジネスが勝手に回ってくれる仕組みを作れるようになりました。

これは本当にお金が勝手に入ってくるのも驚きましたが、毎日お客さんからの反応も良くて自動的にお客さんに価値をちゃんと届けられてるんだなというのは感動ものでした。

単純に自分が注力していたビジネスがうまくいくのは嬉しくて、次はもっとこうしたらいいかなとかまた戦略練ったり勉強してアイデア出すのが楽しくて仕方ありませんでした。

そんなある程度僕の実力がつき始めた頃、たまに同じように起業してる人とお話しするとそれ教えてくださいよ！と頻繁に言われるようになった。

あとは中小企業の社長さんとかは特にインターネットに詳しくなかったりするので、
僕の話に熱心に聞きながら何回も質問せめて、頼む、色々アドバイスしてくれないかとよく求められた。

正直その社長さんは僕よりも経験があって実力もあってどこからどう見ても格上の人だ。

ただそれでもインターネットのマーケティングという分野においては僕の方が知識はあった。

僕からしたら少し失礼に聞こえてしまうかもしれないが、
なんでウェブマーケ知ってればもっと簡単に売上伸びるのにやらないんだろ？と純粹に疑問だった。

僕の中ではウェブマーケを活用するのも当然で周りにもそれを使って当たり前だったからこそ、
実は日本全体で見たらウェブマーケをうまく使えてる人はほとんどいないという事実を知った時衝撃だった。

なんてもったいない世の中だ。

そして色々な企業の方とお会いしていくうちに
世の中には広まってないけど質の高い商品やサービスが多数存在することを知る。

存在はしていても認知されることがなければお客さんには手にとってもらえない。

一生埋もれたままでいいもの作ってる会社が潰れたり危機に瀕してしまう。

逆に悪い商品でもウェブマーケがうまいと尋常じゃないくらい広まってがっばり儲けてる。

このケースは正直僕が見る限りでも結構世の中に存在してます。それが僕は悔しいですし、なんか非常に気に入くないと思いましたね。

僕はウェブマーケは本当に知ってしまえばすぐに効果が出るものだからこそ

この現状が歯がゆいと言いますか、辛いですね。

正しいことをやってる側の人たちが報われてない姿を見て何か自分にできることはないかと僕は思い始めました。

僕はこういう自分のやりたいことが芽生えたのは恥ずかしながら数年前くらいの話なのです。

これまでは夢といってもどう夢を語ればいいのか全くわかりませんでした。

夢について考えたところで大きな理想を掲げても自分に実現できやしないと

理性が僕の野望に蓋をしてしまったり。

じゃあ現実的な夢を語ろうと思うとそれはもはや夢ではなくて目標じゃないかと思ってしまったり。

夢なんて自分には抱けないものだとは半ば諦めていました。

でも僕は師匠に出会い、仕事の考え方を学びウェブマーケティングを学び大きな武器を手に入れました。

大学入った頃はまだまだ何も武器がなくてプライドは高くてどうしようもないくらい調子に乗ってたけど、

あとは高校時代を引きずって人と話すのも苦手で自信なくてコミュ障で全然ダメだったけど、

それでも人に出会いそして学び自分を成長させて行くという循環を繰り返してきました。

そして成功して実力をつけて行く中でだんだん規模の大きい理想も射程圏内に近づいてきて

夢として語ろうとしても気後れしなくなりました。

自信満々に夢を追い求めようと思えるようになりました。

僕の会社は優秀な逸材を育てて日本中の企業様に紹介しようという会社です。

ウェブマーケティングができる優秀な人材が増えれば

もっと日本は面白くなって働く人も企業も活気が出るし、素晴らしいじゃないかと思うわけです。

僕がこの会社をもっと大きくしようと思える原動力になってるのは僕が今まで教えてきた方達で、今もご活躍されてる姿が僕の力になっています。

あがり症で人と喋れない人がトップ営業マンになられたり、
偏差値がもともと40くらいで高卒だったけど慶応卒でも入るのが
難しいくらいの大手に引っこ抜かれたり
もう色々な方々の成長する姿を見てきました。

もちろん本人たちが努力したというのが非常に大きくてあくまで僕
はそのサポートの一端を担ったに過ぎないのですが、
それでも連絡が来るたびに何度も感謝してもらえともっとこうい
う人たちをたくさん増やしていきたいなと気合が入ります。

今日はここまで1日で自分が今まで何をしてきたか考えてきたか葛
藤してきたか悩んできたか
今思ってることをぶっ通しで書き続けました。

正直まだまだ話したいことがありまして、途中省いてる部分とかも
あって後で付け足そうか考えながら今書いております。
ただ全部書こうとするときりがないので一旦ここで終わりにしたい
と思います。

まだ書きたりてないことはまた別の場所で文章に残してみなさんに
伝えていけたらなと思います。
かなりの長文を最後まで読んでいただきありがとうございました。

この文章が、僕の思いがだれかの人生を少しでもよくするほんのきっ
かけになれば嬉しいです。

株式会社逸材は君だ
代表取締役
酒井翔平